

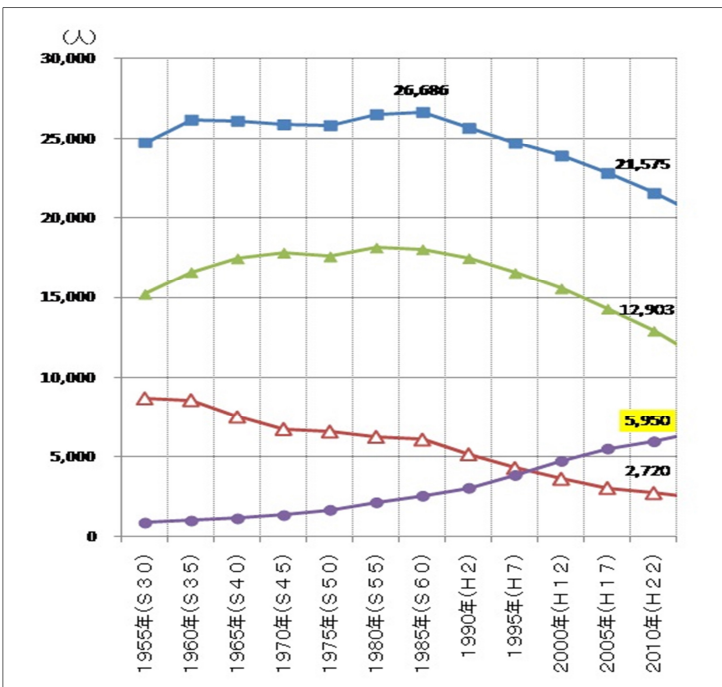
美幌人口ビジョン

< I 人口の現状分析 >

1 人口動向分析

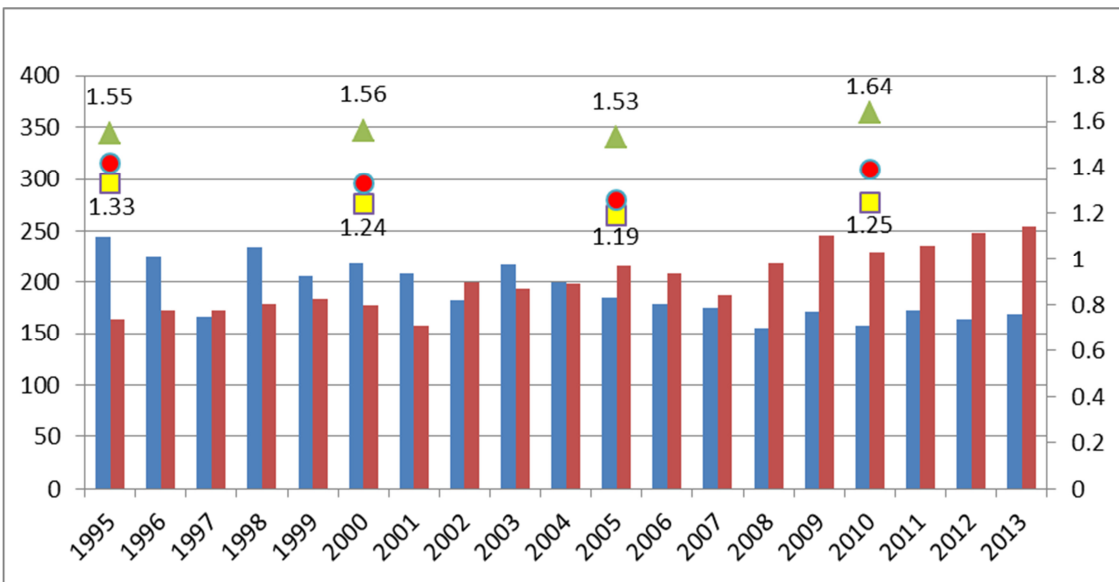
■「総人口と年齢 3 区分人口の推移」

- ・ 1985 年（昭和 60 年）の国勢調査において、26,686 人をピークに、その後は緩やかな減少が続く。
- ・ 15～64 歳（生産年齢人口）は、総人口と同じ弧を描いて緩やかな減少が続いている。
- ・ 65 歳以上の人口は増加を続け、1995 年（平成 7 年）には 15 歳未満人口を越えた。



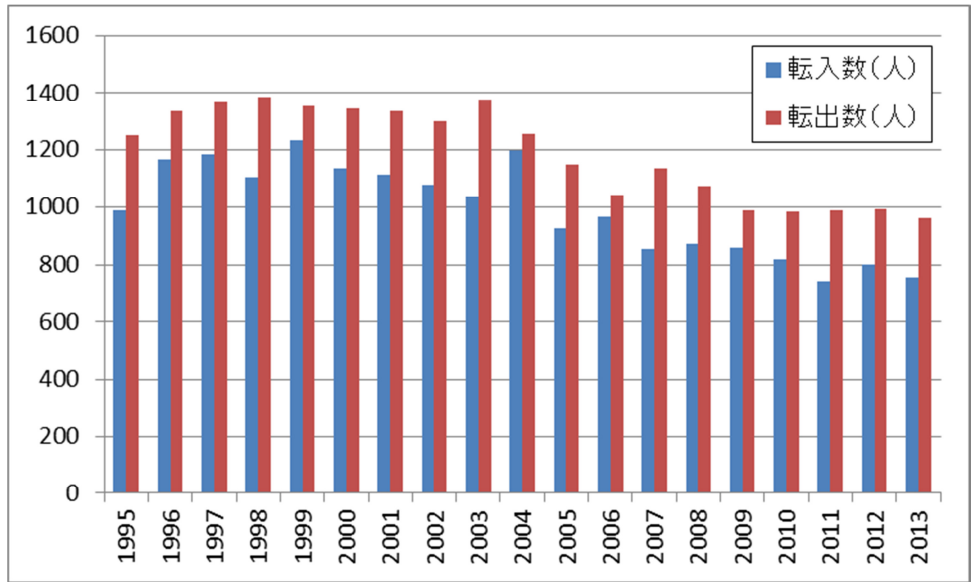
■「自然増減」

- ・ 美幌町の合計特殊出生率は、全国や北海道、近隣の市町村の平均と比較すると高い数値だが、母親世代の人口減少により、出生数は減少傾向にある。
- ・ 死亡数は出生数を上回る状況が続いており、徐々にその差が拡大傾向にある。



■「社会増減」

- ・ 転出超過の状況が続いている。
- ・ 転出先は北見市と札幌市が上位 2 位となっているが、転入元の上位も同 2 市となっている。
- ・ 世代別の転入出状況では、移動数は 20～30 代が最も多いが、転入出差は 20 代以下と 40 代が最も開いている。



2013年(H25)	転入者数	転出者数
北見市	146	222
網走市	62	47
大空町	33	20
津別町	24	10
札幌市	94	161
帯広市	43	67
旭川市	24	42
千歳市	19	26
その他道内	230	249
道外	97	115
合 計	772	959

2013年(H25)	転入者数	転出者数
0～14歳	84	137
15～19歳	93	121
20～29歳	264	307
30～39歳	149	152
40～49歳	84	116
50～59歳	56	50
60歳～	42	76
合 計	772	959

■「年齢階級別男女別人口移動」

- ・
- ・

※分析中

> 図

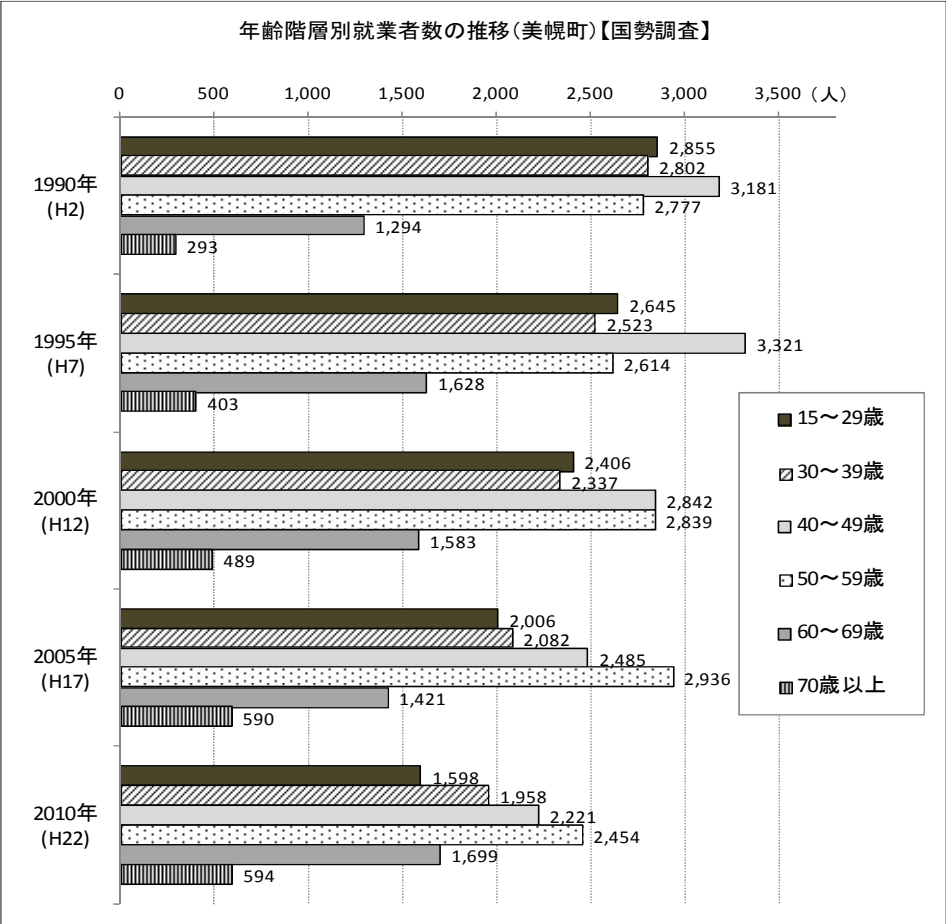
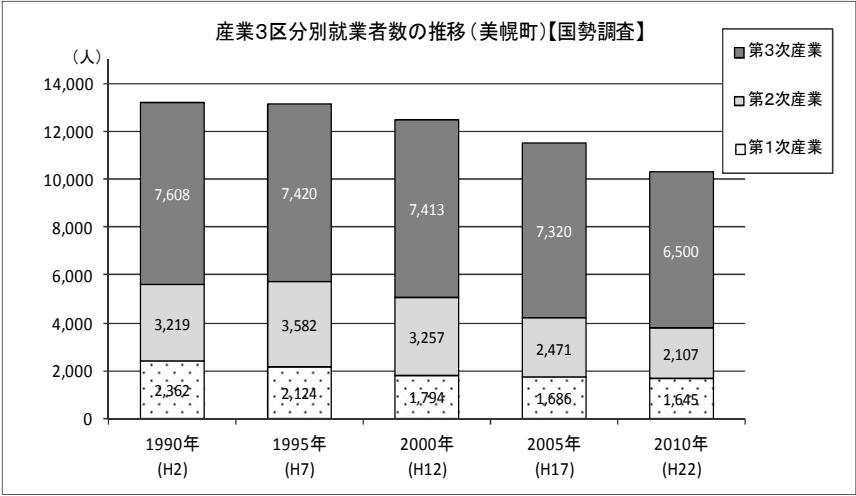
■「通勤・通学による流入出状況」

- ・ 美幌町在住者が町外に通勤・通学する人数は、町外在住者が美幌町内に通勤・通学する人数より多く、労働力等が流出している状況。

区 分	人数	構成比	区 分	人数	構成比
美幌町の通勤・通学者	11,173	100%	美幌町に通勤・通学する者	10,301	100%
うち美幌町→美幌町	9,073	81%	うち美幌町→美幌町	9,073	88%
うち美幌町→町外	2,100	19%	うち町外→美幌町	1,228	12%

■「雇用や就労に関する推移」

- ・全体的に就業人口が減少している中で、第 2 次産業者数の減り幅が大きくなっている。
- ・年齢階層別就業者数では、10 代～30 代が一貫して減少し、2000 年以降は 50～59 歳の就業者数が最も多くなっている。



2 将来人口の推計と分析

■「推計」

●推計①

- ・コーホート変化率法（過去の移動実績を元に平均の変化率を割り出して計算した純粋な推計法）

●推計②

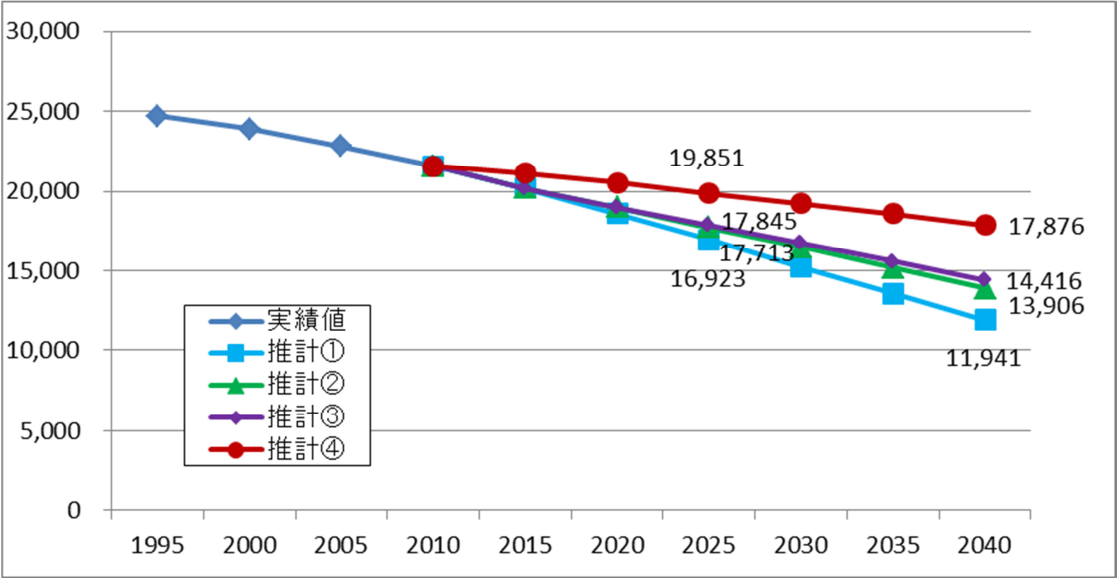
- ・推計①を基本として、2020 年まで現在の出生率「1.64」が続き、2025 年から「1.80」、2030 年には「2.10」に上昇する計算
- ・2020 年から「5～64 歳」までの変化率に 3 ポイント加算し、人口移動を少し収束させた計算

●推計③

- ・推計②に加え、さらに 2025 年から「5～44 歳」までの変化率に 2 ポイント加算（合計 5 P）させ、もう少し人口移動を収束させた計算

●推計④

- ・2020 年まで現在の出生率「1.64」が続き、2025 年から「1.80」、2030 年には「2.10」に上昇する計算
- ・20××年以降、直ちに社会増減が均衡（±0）とする計算



■「分析」

- ・ビッグデータによる過去 5 年間の年平均減少数▲263 人/年。
- ・純粋な推計だと、H27→37 年の 10 年間で年平均▲325 人/年の減少、H37→52 年の 15 年間で年平均▲332 人/年の減少となり、それと比較し、推計②～④では下表のとおり年間の人口を増加させる必要がある。

	H22	H27	H37	H52	
		10年後	15年後		
純推計①	21,575	20,172	16,923	11,941	
		—	▲3,249	▲4,982	
推計②		20,198	17,713	13,906	H27～37 年で年間 76.4 人
前区画差		—	▲2,485	▲3,807	H37～42 年で年間 78.3 人
推計③		20,198	17,845	14,416	H27～37 年で年間 89.6 人
前区画差		—	▲2,353	▲3,429	H37～42 年で年間 103.5 人
推計④		21,158	19,851	17,876	H27～37 年で年間 194.2 人
前区画差		—	▲1,307	▲1,975	H37～42 年で年間 200.5 人

3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

※分析中

<Ⅱ 人口の将来展望>

■「目指すべき将来の方向」

(1) 取組の基本方針

- ・自然減への対応
- ・社会減への対応

(2) 目指す姿とその実現に向けた取組

美幌町が「未来に向けて高い持続性と自立性を保った魅力的な地域社会」の実現に向けて、

- ・地域の資源や特性を活かし、生き生きと働くことのできる就業の場の確保
- ・結婚・出産の希望の実現と地域全体による子育ての環境づくり
- ・将来にわたって暮らし続けることのできる生活環境の確保

に取り組む。

■「人口の将来展望」

国の長期ビジョンと北海道の人口ビジョンにおける合計特殊出生率を勘案し、当町が目指すべき将来の方向性を踏まえて、仮定値を設定し、将来人口を展望する。

・合計特殊出生率

現在の「1.64」から、2025年（平成37年）には「1.80」、2030年（平成42年）には「2.10」まで上昇させることを目指す。

・人口移動

20～30代の移動者数が多いことと、20代以下の未成年とその親世代である40代の転出超過が著しいことから、約5年間で産業の活性化やUターン対策、移住・定住促進、子育て対策などを実施することにより、2020年（平成32年）から、転出者数の抑制効果が出ると仮定する。

これにより、親世代の移動の影響を受ける5歳から、経済の生産年齢世代である64歳までの転出超過を2割減少させ、年齢構造の変化と人口減少の抑制を目指す。

●人口の長期的な見通し

- ・現在の移動状況が続いた場合、2040年（平成52年）の町の人口は11,941人まで減少すると見通される。
- ・しかし、町の施策による効果が着実に反映し、合計特殊出生率と人口移動が仮定値のとおり改善され、さらに自衛隊新部隊が配置となった場合、2040年（平成52年）の人口は「14,500人」となり、約純粋な推計値に比べ約2,560人の施策効果が見込まれる。

